

楮

此暮栢之左枝乃流來者梁者不打而不取香聞將有

〔新撰字鏡〕木穀

〔本草和名〕十二 杼實仁謂音一名穀實穀紙一名楮紙出陶景注角星之精出太清經和名加知乃岐

〔倭名類聚抄〕二十 穀 玉篇云楮都古 穀木也唐韻云穀音穀和名知木名也

〔箋注倭名類聚抄〕十 今本玉篇云楮丑呂切在八語屬徹母都古反在十姥屬端母音韻皆不同此所

音恐誤略 南山經招搖之山郭注穀楮也皮作紙說文楮穀也穀楮也小雅鶴鳴陸疏今江南人以

其皮擣爲紙謂之穀皮紙絜白光輝

〔紀伊續風土記〕物產六上乃本楮乃本和名乃本加知 各郡所在ニ多シ

〔倭訓栞〕前編六加から略 中 新撰字鏡に穀また楮をかぢと訓せり日本紀に擬もよめり七夕に歌

かくは此木の葉也後拾遺集に

天河とわたる舟のかぢの葉におもふ事をも書つくるかな神世に穀を種て木綿を造り天棚

機姫神に神衣を織しめさせられたる事舊事紀に見えたり織女のおもひの故事をもて此木の葉を用る

也一條禪閣の息竹内良鎮の歌に

昔誰きあやまりて星のためかぢの七葉をとりそなへけんとよめるは神世の故事を究め

られざるにや

〔農業全書〕七 楮

楮には其種色々あり其内先葉に切こみ深くあるを楮と云切めなきを構と云と字書には見えたり今専ら作るは黒ひやうとて皮薄紫に見えて葉に切めありて皮の肌へ厚く和らかにして白し又おぶちとて葉の切め黒ひやうより深く木の色青黒く枝ながくのびわきにたれて葉の色青きあり是も皮厚く肌へいさぎよく白し此二色紙に宜し